

平成27年度 西部地区中学校国語教育研究会報告

1 日 時 平成27年8月20日(金) 9:30~17:00

2 会 場 ヴィステテひえづ(第1・2会議室)

3 講 師 宗我部 義則 先生(お茶の水女子大学附属中学校)

4 研修内容

まず冒頭で、「中教審への諮問」についての解釈をご説明いただいた。そのうえで、主体的・協働的に課題を達成する言語活動を通して、「言葉の力」を育てる授業をどう作っていくか、以下3つのポイントにしばってご講義いただいた。

①「授業のデザインを見直す」

- ・その授業でどんな能力(知識・技能)をつけたいのかを明確にする。
- ・まずは「やってみ」て、そこから「きづく」授業を。
- ・参加者のほとんどが授業経験のある「ダイコンは大きな根？」でワークショップを体験。
→どんなことがわかったか？ わかりやすかったか？(採点) その理由は？
気づきをシェア

②「教材研究+言語活動研究」

- ・「説明」するとは？「音読」するとは？・・・言語活動研究を丁寧に行う必要がある。

報告・紹介・説明・発表・説得・案内・意見・編集・朗読・比較・批評・・・

- ・相手、目的、内容が深く関わる。

③「思考力(論理的・批判的思考)」

- ・「比べる」という観点を「走れメロス」の比較読み(原詩との比較)の実践で検討。
→誰にも取り組める。気づきが生まれやすい。比べた結果を意味づける。
- ・気づきをシェアしよう・・・メモカード・プレゼンで伝え合おう。

ご自身が現在も中学生を受け持っておられることもあって、同じ悩みや楽しみを共有しながら聴講することが出来た。また、実際に使用しているノートもたくさん回覧で回していただき、お話にはない日々の実践にも触れ、充実の研修となった。